# 母と殺体験との出会い

## ――女にとって人間解放とは何か

〈人間解放とは何か〉という問いかけが発せられてから久しい。そして、人間解放論が今は自明のことのように語られている。

しかし、ここで我々は人間解放の内容を明確に、再度〈人間解放とは何か〉という基本の問いにせまってその問いの性と生殖を軸にせまる形で考えてゆきたい、いやゆかねばならないと考える。

〈人間解放〉という言葉が言葉のままで[illegible]していることへ[illegible]身の[illegible]そのものを再度、根底的に問うて問い直すためにも、今、今だからこそ。

〈我々の母は最も暴力的な抑圧者だった〉

我々は、[illegible]集会・デモにおいて母と子の[illegible]というプラカードを掲げた。〈母であること、バージンでいることを誰が決めたのか〉[illegible]母の[illegible]を拒否して、[illegible]女の[illegible]として[illegible]を[illegible]。

[illegible]のSEXを[illegible]〈母〉として[illegible]。[illegible]〈日本の母〉として[illegible]女の[illegible]。

[illegible]の肉体的表現としてのSEXを[illegible]〈母〉として[illegible]。[illegible]性差別社会の[illegible]女[illegible]。[illegible]日本の女[illegible]。

我々のプラカードの[illegible]。〈母性〉[illegible]、朝鮮の女を自分の男の[illegible]。

〈最もバイブル的国は人間解放=殺〉

女として〈バージン〉をいわれる、その女の商品価値を決める私有財産制下においての、性差別社会は、女自身にとっての女の内部化を必然化する。性差別社会の男の目としての〈母〉を強固に、内なる母としての内部の中に、女の性と生殖を封じ込めつつ、そして、女の性を許さないという。〈女の性[illegible]、[illegible]女の[illegible]〉[illegible]〈日本の母〉、〈資本帝国主義の母〉でもあったのだ。

女にとって、〈母〉とは、女が〈バージン〉として[illegible]社会体制に他ならない。[illegible]性差別社会の[illegible]〈家〉に他ならないのだ。[illegible]〈家〉は、[illegible]のだ。〈内に[illegible]、外に[illegible]〉[illegible]。

〈女の帝国主義〉

今、[illegible]、女の性と生殖を通して〈[illegible]〉[illegible]。[illegible]、女の性と生殖を[illegible]。[illegible]、日帝[illegible]東南アジア、台湾、韓国に於て、エコノミック・アニマル[illegible]という[illegible]、アジアの[illegible]。

[illegible]日本政府から[illegible]、在日朝鮮人、中国人、アジア人を中心に、[illegible]、あるいは[illegible]。しかし、その[illegible]の中に、現在進行している帝国主義[illegible]の

軍国主義的再編という事態が[illegible]の血肉の痛みを持ってとらえられてきただろうか。少なくとも、我々斗う女は、戦前から今まで、一貫して日本の男たちが汚し続けているアジアの女たちと、真向うことなくして入管斗争を政治課題化したり、国際プロレタリア主義を戦略の前提として口にしたりすることはできないはずだ。内なる入管体制としてある自らの性否定の意識構造を問いつめることなくしてアジア人との出会いはない。

〈女は侵略に役立つ子供を産まない、育てない!!〉

我々は、女〈女〉として生きていないのに、妻として、母として生きられる〈女〉と性否定社会体制に叩きつける斗いとして、中絶禁止法への斗いを展開する中で、女としてその自然な生理機能を自ら否定する地点から、これ以上一歩も退くことのできないきわに自らを立たせつつ、最も搾取されてきた共に、最も深く体制加担してきた者の歴史の全てをかけて、〈入管法上程阻止を、〈入管体制解体を斗い抜いていく決意である。

〈女〉が〈女〉として解放されるため〉

女性解放斗争とは〈女〉があつまってやる運動のことではない。自らの解放を求め斗っていく以上、どのような斗いの場にあっても、女にとってその斗いは、女性解放斗争であるはずだ。斗いをコトバだけのよそよそしいものにしないために〈女として〉自らの性と生殖を通じて、再度入管斗争を入管体制をとらえ直すことを非合法下に向けた階級形成の課題として、我々の姉と妹たちに提起したい。そして、男たちに対しては、なぜNeW Leftの中から〈人間解放を求める斗い〉の中から女が女の解放を叫ばざるをえなかったかを主体的に考え深めることを要請したい。男よ、共に权力斗争を斗い抜こう。

ヤルズラ!!

〈ぐるーぷ闘うおんな〉のスケジュール

11月13日、パンフ"おんな"の勉強会[illegible]
場所 大向区民会館
(西武デパートのA館、B館の道[illegible]
を左へ左へ行き、右手にある。)
TEL 416-2148 会場[illegible]
P.M 6:00～9:30

11月26日
シンポ〈中絶禁止体制解体へ向けて〉
場所・時間未定
参加者は811-0534へTEL

29日 シンポ
〈スエーデンの女、日本の女〉
講師 森本哲郎
文京区民センター (地)後楽園下車
春日町[illegible]
P.M 5:00～9:00

12月8日
〈侵略と斗うおんな集会〉
女は侵略戦争に役立つ子供を生まない
育てない!!
中絶禁止法粉砕 入管法上程阻止
場所時間未定

12月12日
活動者会議・集会
〈なぜリブが生まれたのか、女の
放はいかに斗い獲得されるか〉
豊島振興会館
(池袋東口 豊島公会
P.M 6:00～9:00

中絶禁止法粉砕!!
中絶禁止体制(性否定の社会体制)解体!!
入管法上程阻止!!
入管体制解体!!

ぐるーぷ闘うおんな
TEL-811-253